

JCHO久留米総合病院 キャリアラダー 実践能力評価表1

部署： 氏名：

レベル		I	II	III	IV	V
経験年数の目安		新 人	2 ～ 3 年 目	4 ～ 6 年 目	5 ～ 8 年 目	6 ～ 10 年 目
組織的役割遂行能力	レベル毎の定義	JCHO及び自施設の理念と使命を理解し、組織の一員としての自覚を持って行動する	組織の一員としての役割を理解し、所属部署の目標を意識して行動する	所属部署の目標達成に向けて主体的に実践する	自施設の目標達成に向けて主体的に実践する	自施設の目標達成に向けて組織改革に必要な建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する
	【レベル毎の目標】	☐ 地域社会における自施設の役割・機能を理解する ☐ 自己の業務管理等、社会人・組織人としてのルールを身につける ☐ 組織が示す収益向上と費用削減のための具体的な取組みへ協力をする	☐ 地域包括ケアシステムの概要を理解する ☐ 地域医療及び地域包括ケアのチームの一員として看護職に求められる役割を考え行動につなげる ☐ 看護チーム内での役割を遂行する ☐ 業務管理を自立して行い、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	☐ 地域医療及び地域包括ケアのチームの一員として、地域の人々の生活上のニーズを把握し、積極的に問題解決に参画する ☐ 日々の看護業務におけるリーダーとしての役割を遂行する ☐ 自部署に関連する診療報酬制度等を理解し、組織が示す収益向上と費用削減のための具体策に取り組む	☐ 地域住民の多様なニーズを把握し多職種間と統合したケアを主体的に提供する ☐ 看護チームや委員会等のリーダーとしてリーダーシップを発揮する ☐ 保健医療福祉の動向をふまえ、組織が示す収益向上と費用削減のための取り組みの必要性を理解し、主体的に実践する	☐ 地域住民の多様なニーズを把握し、地域住民の療養生活を支えるため、関連する施設や多職種間と統合したケアを提供できるようリーダーシップを発揮する ☐ 専門性を発揮し、看護チームの管理・教育的役割モデルとして行動する ☐ 保健医療福祉の動向をふまえ、組織の収益向上と費用削減のための建設的意見を提案でき、具体策を主体的に実践する
倫理的実践力	レベル毎の定義					
	【レベル毎の目標】	☐ 看護職として自覚と責任を持った行動ができる ☐ 看護職の実践は倫理綱領に基づくものであることが理解できる ☐ 看護の倫理原則を理解できる。	☐ 患者家族の思いや考えを理解し、彼らの人権を尊重した行動がとれる ☐ 看護の倫理原則を、日常のケアと関連付け倫理的ジレンマに気づくことができる	☐ 患者と家族の価値観を理解できるまた、医療従事者側としての彼らの価値観患者・家族に関わる他職種の価値観も理解できる ☐ 価値観の多様性とお互いの価値観を尊重することの重要性を理解し、倫理的ジレンマから倫理的問題を明確にし解決策を検討できる	☐ 患者・家族の倫理的意思決定プロセスに看護職の立場で参加し適切な看護ケアを実践できる ☐ 患者・家族および日常業務における倫理的問題の顕在化をはかり、適切な判断・解決につながる看護ケアを実践できる ☐ 上記を通して、倫理の実践者としてのよきモデルを示せる。	☐ 適切なリソースを積極的に活用し、倫理的意思決定プロセスを支援することができる ☐ 法的および文化的配慮など多方面から対象となる人々を擁護した倫理的意思決定プロセスを支援できる
自己教育・研究能力	レベル毎の定義	自己の課題を指導によって発見し、自主的な学習に取り組むことができる	自己の課題を明確化し、達成に向けた学習活動を展開することができる	自己の学習活動に積極的に取り組むとともに、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践することができる	自己のキャリア開発に関して目指す方向に主体的に研究的に取り組み、後輩のロールモデルとなることができる	単独で専門領域や高度な看護技術等についての自己教育活動を展開することができる。主となり研究活動を実践できる。看護単位における教育的役割がとれる
	【レベル毎の目標】	☐ 必要な知識・技術を主体的に学習し、自己の学習課題を指導によって発見する ☐ 看護実践に必要な文献検索ができる	☐ 日々の実践から生じる疑問点など、自己の学習ニーズを明確にし、知識・技術の習得に向けた学習活動を展開する ☐ 後輩と共に学習する ☐ 研究的視点をもって、根拠に基づく看護実践に向けて取り組む	☐ 実践の多面的な分析・評価(研究的な視点)を行い、自己の実践の振り返りをする ☐ 組織の中での自己の立ち位置を確認し、中長期的な自己のキャリアを描き始める ☐ 看護実践者として後輩に支援的役割を果たせる ☐ 看護の質を向上するために研究結果を活用する	☐ 組織ニーズを意識しながら、自己のキャリア形成像が描ける ☐ 専門領域や高度な看護技術等の習得に主体的に取り組む ☐ 後輩のロールモデルとなり学習を支援する ☐ 課題解決や看護の質を向上するために研究的に取り組む	☐ 地域社会の課題等を踏まえて自己のキャリア形成を思考する ☐ 専門領域や高度な看護技術等について自己の学習活動を推進し、他者を育成する中で成長する ☐ 看護単位における教育的役割がとれる ☐ 研究活動を実践する ☐ 他者の研究活動を支援する

JCHO久留米総合病院 キャリアラダー 実践能力評価表2

部署：

氏名：

レベル		I	II	III	IV	V
経験年数の目安		新 人	2 ～ 3 年 目	4 ～ 6 年 目	5 ～ 8 年 目	6 ～ 10 年 目
看護の核となる実践能力	レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとっての最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
	ニーズをとらえる力	【レベル毎の目標】 助言を得てケアの受け手や状況(場)のニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)のニーズを自らとらえる	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえたニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)を統合しニーズをとらえる	ケアの受け手や状況(場)の関連や意味をふまえニーズをとらえる
		【行動目標】 □助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	【レベル毎の目標】 助言を得ながら、安全な看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)に応じた看護を実践する	ケアの受け手や状況(場)の特性をふまえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する	最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する
		【行動目標】 □指導を受けながら看護手順に沿ったケアが実施できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って、基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□ケアの受け手の個性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対してケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個性に合わせて、適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個性をとらえ、看護実践に反映ができる	□ケアの受け手の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的および予防的に看護実践ができる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応するためあらゆる知見(看護および看護以外の分野)を動員し、ケアを実践・評価・追求できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	【レベル毎の目標】 関係者と情報共有ができる	看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる	ケアの受け手やその関係者、多職種と連携ができる	ケアの受け手を取り巻く多職種の力を調整し連携できる	ケアの受け手の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす
		【行動目標】 □助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換ができる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力し合いながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力し合うことができる □多職種間の連携が機能するように調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、自律的な判断のもと関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】 ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【行動目標】 □助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる